

牽 綱をつけてひきゆくなり。
【例】牽牛

ひくし

低 高の反対、地のひくきこと。
【例】低地

卑 尊の反対、身分のひくきこと。
【例】卑賤

ひろかに

竊 人目をぬすみしのびやかにすなり。
【例】竊盜

私 公の反対にして自分一人にてなり。
【例】私淑

密 人目にふれぬところにさちこもりてなすなり。
【例】密行

秘 密に同じくして守る意あり。
【例】秘法

ひとし

等 廣く用ふ、物事の不同なきなり。
【例】同等

齊 物の長短のそろへるなり。
【例】齊一

均 地の高低なきなり。
【例】平均

ひま

隙 物と物とのすきまのこと。
【例】隙を伺ふ

間 仕事なき間、手すきのこと。今日は廣義に用ふ。

ひらく

開 廣く用ふ、閉の反対、口をあくること。
【例】開門

啓 人の知らぬことを教へみちびくこと。
【例】啓發

披 兩方へあけひらくこと。
【例】披見

ひろし

廣 廣く用ふ、面積のひろきなり。
【例】廣大

博 間口のひろきこと。
【例】博愛

弘 ひろく大なること、無形の事にも用ふ。
【例】弘大

濶 双方に限あれども其間のひろきなり。
【例】濶濶

寬 物を内に入るゝに充分なる間あるなり。
【例】寬大

汎 ひろくて深からぬこと。
【例】汎論

ふす

俯 仰の反対にして頭を下方に下ぐること。
【例】俯向

伏 起の反対にて身體を地上に横へ見付けられぬやうにかくる、なり。
【例】潜伏

臥 坐に對する辭にして身體を横にするなり。
【例】坐臥

ふせど

防 かれて用心すること。
【例】豫防

禦 さしあたりふせぎさむること。
【例】禦寇

拒 こばみふせぐこと。
【例】抗拒

ふね

舟、船 廣く用ふ。
【例】漁舟、汽船

舶 大ふね。
【例】舶載

ふむ

蹈 通常あゆむ様に地をふむこと、又ふみつくくる意あり。

踏

【例】舞踏
軽く故意に足拍子をさるなり。

踐

前の事物の形跡を其通りにふまへて止まるなり。

履

【例】踐祚、實踐
ふみながら進みあるること。

躡

【例】履行
ふみつけて先へ行きすぎるなり。

蹂躪

ふみにじるなり。

ふるし

古

廣く用ふ、今に對す。

故

新に對す。【例】故舊、故友

舊

新に對す。時經たるなり。【例】舊時

陳

新に對す。年月經てあしくなれるなり。

ふるふ

【例】奮起
勇み進むこと。

奮

ふるひうごく。

震

【例】震怒
ふるふるさふるふこと。げつげさふるふこと。【例】振動、振衣

揮

【例】揮毫、揮レ戈
手にて物をふるること。

ほこる

【例】誇大
大言すること。

矜

【例】矜
自ら賢さすること。

伐

功にほこること。

ほしいまゝ

【例】放縱
欲すること自由自在になすこと。

縦

横

欲することの理、非理を顧みず勝手に實行すること。【例】横行

放

羈の反對にて束縛されず事物に拘泥せぬこと。【例】放逸

肆

自由自在にする意強し。【例】放肆

恣

狡猾にして氣儘に我まゝすること。【例】驕恣

擅

專の意、一人にて事をさり行ふこと。

ほむ

善をほめ賞すること。【例】褒美

譽

毀の反對、ほめたつる。【例】名譽

賞

功徳をしたひ又は獎勵するため物品を贈る意。【例】賞品

讚

共にかくれたる徳を世人に知らしむるなり。【例】讚美

國語要覽

頌

其功徳をほめて文字に書しるし世人に見すること。【例】頌徳碑

ほろぶ

もてはやし慕ふ意。

滅

事物の其所にてそのまゝにあさかたなくなること。【例】消滅

亡

有又は存の反對にて、あるものなくなる意。【例】死亡

吠

犬のほゆること。

吼

大なる獸のほゆること。【例】獅子吼

咆

哮、哮猛獸のほれたけること。

まこと

偽の反對。人間が便宜の善き様に勝手に作り爲すこと。反對。少しもつくるはねこと。

一九三

且 將き同じけれど、之より急にし
て意もつよし。

まじはる

物の入りまじはるこゝ、又朋友
の交りのこゝ。【例】交情
種々のもの、一所にまざりある
こゝ。【例】錯雜
別々のものが一つにうちまじは
るこゝ。【例】混同

また

其外また其上またにて相似たる
こゝを幾度も重ぬるこゝ。

亦

もまたにて名詞と名詞との關係
をいふ字。

復

同じ事を二度するさきにいふ
字。【例】復習

まつ

信

言葉につきて違ふこゝなき意、
即前の事を受けて其通り全くの
意、誠は實際に全くの意。

眞

誠は人の心又は其行ふ事につき
ていひ、眞は物の質につきて偽
の反對なり。

固

もさよりによむ辭にして、いか
にもその通りこの意。

實

虚の反對。信實なるこゝ。

まさ

に

邪ならぬ意、時の上に關せず道
理の上にて正邪の判例をふくむ
なり。

當

當然かくあるはずこの意。

方

眞盛りなるさきをいふ。

將

【例】方今
既の反對、おつ、け、やがての
意。【例】將來

奏

臣下の政事をとり行ひて仕へ奉
る意。

みぞ

四尺内外の小水路をいふ。

溝

川につげるものにて溝より大な
り。

みだりに

むやみに。

妄

【例】妄言
妄に近し、やたらに。

濫

【例】濫造
差別なく、かるがるしく。

みち

【例】狼狽
大小に通じ廣く用ひらる。

道

待

廣く用ふ。來るをまつ、來たる
ものをあしらふこゝ。

俟

【例】時を待つ、待遇
せかずに自然と物の來るを待
つ。【例】駕を俟つ。

まもる

目をばなたず見るこゝ、みはる、
みつむる。【例】守衛

守

番をなしとりまくこゝ。

衛

【例】衛士
害あらせじと大切に防ぎをなす
こゝ。【例】保護

まをす

仲と同音にて言をのぶるこゝ、
事のすちをよくさほるやうに述
べつぐるなり。

申

【例】告白
あからさまにのぶるこゝ。

白

原 事物のよつて来る源にさかのぼりたづねる意。【例】原因
 本の反対にて形ある一物の始終につきていふ。【例】本元
 大なりと訓じ事の首始をいふ。【例】元年
 前々よりの意。
 固 物の本質なり。下地なり。【例】素性
 素 まへかた、かつての意。【例】舊知
 舊 廣く用ふ。物をほしがること。又さがしむる事。【例】求友
 求 入用なるものを是非に求めむること。【例】人をもとむ
 もとむ

索 さがしたづねもさむ、求より意せまし。【例】探索
 干 困難なることを強ひてもさめ望みて行ふなり。
 需 必要なるもの、無くてならぬものを心に期して待ちもさむるなり。【例】需要
 覓 尋れもさむ、捜しもさむるなり。
 やすし 廣く用ふ。危の反対。【例】平安
 安 安くして無事なること。【例】康寧
 康 難の反対、たやすきこと。【例】容易、簡易
 易 やはらか
 柔 剛の反対にして人の氣質につきていふ。【例】柔順

軟 硬の反対、堅からぬこと。【例】軟弱
 和 静まること、なぐること。【例】和合
 やふる わるること。【例】破竹、撃破
 破 いつとなくやぶること、又戦にまくること。【例】敗敗、腐軍
 敗 くづること、こぼること。【例】破壊、崩壊
 壊 衣服、履物などの古くなりてやぶること。【例】敝衣
 敝 やまひ
 疾 急にやみたるやまひ、今は病と同じく用ひらる。【例】疾病
 病 廣し、病のや、重くなりたること。【例】病臥

痾、痼 病の深く根に入りたること、病のこりかたまりたること。【例】宿痾、痼疾
 疫 はやりやまひ。【例】時疫
 やむ さまりやむ、さむること。【例】廢止、禁止
 止 已止の已にて、果てやむこと。【例】罷業
 罷 事の終ること、さむること、廢つること。【例】罷業
 歇 やみこまること。【例】間歇
 ゆく 廣く用ふ、先方へ行くこと。【例】往來
 往 廣く用ふ、歩み進むこと。【例】歩行、急行
 行

ゆるす

赦 免 許 聽 釋 宥 恕 よし

罪をゆるす。
【例】大赦

廣く用ふ。ゆるして自由にする。
【例】放免、免疫

それにてよしとさしゆるすこと。
【例】許諾、官許

先方の望みをききゆるすこと。
【例】聽許

赦と同じく罪過あるものをゆるす。束縛をさきゆるすこと。
【例】釋放

寛大にして罪過をさがめず、見のがすこと。
【例】宥免

過罪を情的に寛大にみのがすこと。

ゆる

逝 之 適 如 讓 遜 禪

往て還らざることを、死すること。
【例】日月逝矣、逝去

彼の地にゆくなり、目的地明かにゆくことを強くいふなり。
【例】岐山の下に之く。

ゆき先をまさしていふ。【例】天子諸侯に適くを巡狩さしふ。

之に似て目的地明かなるに用ふ先方へ行きつくなり。
【例】鄭伯因に如く。

己を後にして人をさきにすること。又己を捨て、他にさづくること。
【例】辭讓、讓與

己れのきて他に與ふること。
【例】謙遜

天子の位をゆづりわたすこと。
【例】受禪

よる

善 好 良 佳 依 據 寄 賴

惡の反對。
【例】善行、善意

形のよきこと、又何にてもよくこのまじきこと。
【例】好節、好風景

程よくさゝのへること。
【例】良工、良弓

美しきこと、又工合よきこと。
【例】佳麗、佳境

廣く用ふ。たのみさしてたよる。
【例】信賴

立ちよることよりつくこと。
【例】寄托

物のよりどころとすること。
【例】割據

よりそふこと。
【例】依賴

よろこぶ

因 由 仍 倚 喜 悅 歡 慶

もとづくさいふこと。
【例】云々に因て

或る事物をまさして其方に傾きよる意。
【例】由是觀之

其まゝにて。
【例】我軍遼陽を陥る、仍て奉天を攻む。

一方へよりかゝること、壁又は木などによりつくこと。
【例】門に倚りて望む。

うれしがること。
【例】喜怒

心によるこびたのしむこと。
【例】悅服

喜び勇むこと。
【例】歡樂

めでたきことをいはいよること。
【例】慶事

わかつ(わかる)

分 合の反對にて別々にひきはなつ
 こと。【例】分解
 別 混雜せぬやう引きわくること。
 【例】區別
 判 二つに切りはなつこと。
 【例】判定
 班 或る物を多數の人にわかちあた
 ふること。【例】之を兄弟の貧し
 き者に班たん
 頌 班と音義同じ。
 【例】頌布
 訣 死にわかること。又人にわか
 ること。【例】永訣、訣別
 わざはひ 不仕合せの出来こと。
 【例】禍根
 禍

災

天變地異より來るわざはひ。
 【例】天災、災難
 殃 神のさかめを受くること。
 【例】積不善の家には餘殃あり

わする

覺えたることを失ふこと。
 【例】忘却
 遺 ふと心にさりおさすこと。
 【例】遺失

わたる

水をわたること、廣く用ふ。
 【例】渡航
 渡 淺き水をかちわたりすること。
 【例】跋涉
 互 物がこちらより向へわたりさ
 ぐこと。【例】連亘

を

予、余の意にしてよわし。
 をかす いつとなしにひそかにをかす。
 【例】侵略
 犯 むやみに範圍外にふみ入ること。
 【例】法を犯す
 冒 頭に物をかぶりて進む。
 【例】矢石を冒して進む

僅

物の數量の少しなること。
 【例】僅少
 纒 やつさ、いふこと、只さいふこ
 となり。【例】纒に死せざるを得たり。

わらふ

閉ちたる口をひらくこと。
 【例】失笑
 笑 花唇のひらくこと。
 【例】花咲

咲

口をひらきて齒をあらはすほど
 にわらふこと、微笑の意。
 啞 あざけりわらふ。
 【例】嘲嗤

唾

われ

彼に對する字にて自分を強くい
 ふなり。【例】我慾、彼我
 我 只自分獨りにていふ字。
 吾

了 【例】結了 さつげり埒があきてすむこと。

納 【例】納付 しまひ入るゝこと。

をしふ

教 【例】教導 上より下に物をなしふること。

誨 【例】訓誨 言をもつて教へさせしむこと。

訓 【例】訓誡 道理を以て人をなしへ曉すこと。

をばる

終 【例】終結 始に對す。

畢 【例】畢竟 一より十まで、つくじをばること。

卒 【例】卒業 事をなしをばること。

小學校國語科教授要旨

國語は普通の言語、日常須知の文字及び文章を知らしめ、正確に思想を發表するの能を養ひ、兼て智徳を啓發するを以て要旨とす。尋常小學校に於ては初は發音を正し、假名の讀み方、書き方、綴り方を知らしめ、漸く進みては日常須知の文字及普通文に及ぼし、又言語を練習せしむべし。

高等小學校に於ては稍進みたる程度に於て日常須知の文字及普通文の讀み方、書き方、綴り方を授け、又言語を練習せしむべし。讀み方、書き方、綴り方は各々其の主とする所により教授時間を區別することを得るも、特に注意して相聯絡せしめんことを要す。讀本の文章は平易にして國語の模範となり、且兒童の心情を快活

純正ならしむるものなるを要し、其材料は修身・歴史・地理・理科其の他生活に必須なる事項に取り、趣味に富むものたるべし。女兒の學級に用ふる讀本には、特に家事上の事項を交ふべし。文章の綴り方は讀み方又は他の教科目に於て授けたる事項、兒童の日常見聞せる事項、及處世に必須なる事項を記述せしめ、其の行文は平易にして旨趣明瞭ならんことを要す。

書き方に用ふる漢字の書體は楷書・行書の一種若くは二種とす。國語を授くる際には常に其の意義を明瞭にし、且既修の文字を以て通常の人名・地名等に應用せしめ、單語・短句・短文を書取らしめ若くは改作せしめ、假名及語句の用法に習熟せしめんことを務むべし。

他の教科目を授くる際に於ても常に言語の練習に注意し、又文字を書かしむるときは其の字形及び字行を正しくせしめんことを要す。

(小學校令施行規則教則第三條抄)

第四號表抄

學年	每週教授時間	事項
第一學年	一〇	發音、假名及び近易なる普通文の讀み方、綴り方、話し方。
第二學年	一二	假名、日常須知の文字及び近易なる普通文の讀み方、書き方、綴り方、話し方。
第三學年	一四	日常須知の文字及び近易なる普通文の讀み方、書き方、綴り方、話し方。
第四學年	一四	日常須知の文字及び近易なる普通文の讀み方、綴り方、話し方。

第五學年

一〇 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方、話し方。

第六學年

一〇 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方、話し方。

第五號表抄

學年

每週教授時間

第一學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第二學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第六號表抄

學年

每週教授時間

第一學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第二學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第三學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

【附録】 參考書

第五學年

一〇 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方、話し方。

第六學年

一〇 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方、話し方。

第五號表抄

學年

每週教
授時間

第一學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第二學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第六號表抄

學年

每週教
授時間

第一學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第二學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

第三學年

八 日常須知の文字及び普通文の読み方、書き方、綴り方。

【附録】參考書

修身科

書名

著者

定價

發行所

備考

○在學中

勅語 井上哲次郎
 戊申詔書述 帝國教育會
 倫理學講義 桑木嚴翼
 實踐倫理講 中島德藏
 教育的倫理學 吉田熊次

○卒業後一般的

倫理學演義 吉田靜致
 倫理學史 北田萬一
 倫理學概論 大澤定吉
 國民道德の概論 井上哲次郎
 國民道德の教養 吉田熊次

參考書

三、八〇〇 寶文館
 二、〇〇〇 弘道館
 一、三〇〇 大日本圖書株式會社
 二、八〇〇 三省堂
 二、〇〇〇 弘道館
 一、五〇〇 弘道館
 一、四〇〇 同文館
 一、九〇〇 富山房
 一、〇〇〇 帝國教育會
 二、〇〇〇 日黑書店

大日本倫理思想發達史 岩橋 運成 五、五〇目 黑書店
 ○卒業後特殊的
 大日本倫理彙編 吉田 靜致 二、五〇〇 富尾文淵房堂
 西洋倫理學史講義 吉田 靜致 一〇〇
 東洋倫理諸子

教育科

○在學中
 心理學綱要 元良勇次郎 一、〇〇〇 弘道館
 教育心理學講義 福來水友吉 一、〇〇〇 弘道館
 現代の心理學 速來水友吉 一、五〇〇 不同
 ○卒業後一般的
 心理學審義 福來水友吉 四、八〇〇 寶文館
 實驗心理學講義 上野陽一 三、〇〇〇 同寶文館
 教育に應ずる兒童研究 上野陽一 二、八〇〇 同寶文館
 用したる兒童研究 高野平三 二、五〇〇 同寶文館
 心理學通義 上野陽一 二、五〇〇 同寶文館

○卒業後特殊的

實驗心理十講 松本亦太郎 二、五〇〇 弘道館
 實驗心理學 大槻快尊 三、八〇〇 富山房
 個性心理及比較心理 中島泰藏 一、八〇〇 富山房
 ザントの心理學 須藤新吉 二、〇〇〇 內田老鶴圃

○在學中

最新論理學綱要紀平 正美 一、〇〇〇 弘道館
 卒業後一般的
 增訂最新論理學要義 今福忍 一、八〇〇 寶文館
 教育學、其の他

○在學中

教育學精義 森岡常藏 二、〇〇〇 同寶文館
 新撰教育學史 大瀨甚太郎 一、四〇〇 同寶文館
 日本教育史 文部省 一、〇〇〇 同寶文館
 提要世界教育史綱 文部省 二、〇〇〇 同寶文館
 小學校管理法教科書 渡邊辰次郎 二、五五〇 同寶文館

參考書

○卒業後一般的

各科教授法	三	二、〇〇〇	目弘	黒道書館
教授法の新研究	三	二、〇〇〇	目弘	黒道書館
系統的教育學	吉	二、〇〇〇	弘	道
現今教育の研究	小	一、八〇〇	同	文道館
最近の教育思想	大	一、六〇〇	教育新潮研究會	館
(モイマン氏)實驗教育	大	一、四〇〇	開	發
學講義	稻	二、五〇〇	成	美
歐洲教育史	大	一、〇〇〇	弘	道
近代教育思想	入	一、六〇〇	育	英
明治教育思想	野	二、〇〇〇	寶	文
(實驗)學校管理法精義	渡	二、五〇〇	同	文
教授法精義	森	一、八〇〇	目	黒
新教授法	乙	一、八〇〇	同	書
各學科に關する教授法	森	一、八〇〇	同	書
○卒業後特殊的	小	一、五〇〇	博	文館
於ける教育問題の研究	西	一、五〇〇	同	館

國語漢文科

教育行政	松浦鎮吉	二、三〇〇	東京出版
教育教授の新潮流	乙嶺山榮次	二、〇〇〇	弘道書館
兒童學綱要	元良勇次郎	一、八〇〇	洛陽堂
教育病理及治療法	榑保三郎	一、八〇〇	富山房
訓練論	吉田熊次	一、五〇〇	弘道書館
歐米國民性的訓練	野田義夫	三、〇〇〇	同
列強國民性的訓練	元良勇次郎	二、〇〇〇	同
青年期の研究	澤柳政太郎	一、二〇〇	同
教師及校長論	澤柳政太郎	一、二〇〇	同

○卒業後一般的

一言	海大槻文彦	一、五〇〇	吉川弘文館
一言	泉落合直文	五、〇〇〇	大倉書店

參考書

新辭	體國語漢文大辭典	林金澤庄三郎	二、五〇〇	三	省	松邑三松堂
(口)漢字に關するもの	漢和辭典	小山左文治	二、五〇〇	三	省	松邑三松堂
(新譯)漢和辭典	三	濱野知三郎	四、〇〇〇	三	省	松邑三松堂
(縮刷)漢和辭典	芳賀剛太郎	二、〇〇〇	六	省	文合館	
(八)故事熟語に關する者	(增修)故事成語大辭典	簡野道明	三、五〇〇	三	省	文合館
(模範)故事熟語辭典	大鳥庄之助外一氏	一、二〇〇	三	省	文合館	
(三)和歌俳句に關する者	觀	松下大三郎外三氏	一、三〇〇	三	省	文合館
新撰俳諧辭典	岩本梓石外一名	二、五〇〇	二	省	文合館	
(ホ)雜	增國文大辭典	八代國次外三名	三、〇〇〇	三	省	文合館
訂國文大辭典	藤井宣正	四、五〇〇	四	省	文合館	
佛語大辭典	藤井乙男	五、五〇〇	五	省	文合館	
諺語大辭典	加藤真淵	一、四〇〇	四	省	文合館	
冠字	伊藤東涯	一、二〇〇	一	省	文合館	
操						

二 漢文

格言大辭典	芳賀矢一	二、五〇〇	文	昌	閣
日本外史	賴				
十日叢書	軌				
文叢書	毛利貞齋	各一、三〇〇	博	文	館
校註漢文叢書	唐宋八大家文				
詩文	和漢名類選評釋	簡野道明	一、七五〇	明	治書院
校註漢文叢書	唐詩選三體詩	千葉玄之素隱	一、三〇〇	博	治書院
三國文	(イ)物語類	大鏡詳解	一、六〇〇	明	治書院
大鏡詳解	修增鏡詳解	和川英松外一氏	二、五〇〇	同	治書院
訂增鏡詳解	(口)軍記物	佐伯有義外一氏	三、五〇〇	三	松堂
校註神皇正統記					

參考書

歷史科

發音學講話	修訂狂言全集	校訂狂言全集	論曲評話	鳩里見八犬傳(三册)	文藝叢書	百人一首講義	和朗詠集新釋	(千)其他	支那文學史	明治文學史	國文學史十講	國文學史	鎌倉室町時代文學史
岡倉由三郎	佐々政一	幸田露伴	大和田建樹	瀧澤馬琴	金子元臣	佐々木信綱	外一名	古賀貞吉	岩城準	芳賀矢一	同	同	同
一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	凡三〇〇位	各一、三〇〇	一、八〇〇	二、二〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
寶社	大日本圖書株式會社	同	同	同	博中	博中	博中	東育	京英	山	富同	同	大倉書店
永館	永館	永館	永館	永館	文西館	文西館	文西館	京英堂	京英堂	山會房	富同	同	大倉書店

國文學全史平安朝篇	(下)文學史	訂日本口語法	改訂日本口語法	廣日本文典及同別記	(一)文法	同八代集(二册)	校註和歌叢書	(水)和歌	十六夜日記	土佐日記	(三)日記	方丈草講話	徒然草講話	(八)隨筆記(上下)	同太平記(上下)	校註國文叢書
藤岡作太郎	兒島吉郎	吉郷市彦	大槻文彦	大槻文彦	北村季吟	橋村千陰	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、〇〇〇	續前編六五〇〇	續前編六七〇〇	四、五〇〇	五、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	各一、三〇〇	各一、三〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	二、八〇〇	各一、三〇〇	各一、三〇〇	各一、三〇〇	各一、三〇〇	各一、三〇〇
開成館	富山房	富山房	大日本圖書株式會社	弘文館	同	博文館	同	同	同	同	同	東亞堂	東亞堂	同	同	博文館

○在學中

大日本歷史集成 青木長武
 大日本歷史辭典 萩野由之
 增訂國史大辭典 高野駒吉
 東洋歷史詳解 桑野由之
 西洋歷史通表 川秀雄
 最新世界年表 三瀬省堂
 新潮流を汲める歴史教授法精義 大元一郎

○卒業後一般的

歴史參考書
 國史の研究 黑板勝美
 國史の概説 大森金五郎
 國史の概説 櫻井時太郎
 日本國史地圖 原秀四郎
 大日本人名辭書 經濟雜誌社
 大日本人名辭典 芳賀矢一
 支那通史 珂矢世

地理科

東洋讀史地圖 箭内互
 實證的見地歴史の内容 齋藤斐章
 心理的思索的教授法 齋藤斐章
 防長志要山口縣

○在學中

最新日本地理集成 角田政治
 外國地理集成 同田隆
 新潮流を汲める地理教授法精義 大元茂一郎

○卒業後一般的

日本大地理誌 山崎直方
 改訂最新日本地理資料 井原儀
 補綴最新日本地理資料 文部省
 小學日本地理教授資料 坪谷善四郎
 日本漫遊案内 坪谷善四郎

參考書

教授大日本物産詳解	佐々木清之丞	二、三〇〇	敬文館
資料大日本地名辭書	吉田東伍	四〇〇〇	富山房
大日本地名辭書	吉田東伍	四〇〇〇	富山房
日本統計年鑑	內閣統計局	三、五〇〇	東京統計協會
帝國統計年鑑	內閣統計局	三、五〇〇	東京統計協會
國民年鑑	國民新聞社	五〇〇	東京統計協會
山口縣勢一斑	山口新聞社	五〇〇	東京統計協會
動的世界地理	森屋荒美雄	五、八〇〇	六盟館
提地理汎論	石川成章	三、〇〇〇	金刺芳流堂
要地理汎論	石川成章	三、〇〇〇	金刺芳流堂
人生地理學	牧口常三郎	二、七〇〇	文會堂
世界物產地誌	矢口常三郎	二、〇〇〇	丸文會堂
世界漫遊案	伊東祐四郎	一、〇〇〇	同博館
外國地名稱呼一覽	坪谷善四郎	一、七〇〇	同博館
鐵道旅行案内	史學會	一、二〇〇	文館
瀛船旅行案内	博文館	一、〇〇〇	文館
小學校に於ける地理の(理論的、實際的)研究	稻垣國三郎外一氏	一、三〇〇	同文館

數 學 科

具體的研究を主としたる實際的地理教授法	日高佐七	七〇〇	東京出版社
帝國百科普通人類學	八木英三郎	四〇〇	博文館
全書普通人類學	八木英三郎	四〇〇	博文館
地震學講話	大森房吉	二、〇〇〇	博文館
近世氣象學	岡田武松	四〇〇	博文館

○卒業後一般的

(一)算術	新式算術講義	高木博士	一、〇〇〇	博文館
	算術四則問題	林博士	五、五〇〇	大倉書店
	數の概	同	一、三〇〇	同
	數の計算法	森岩太郎	七〇〇	目黒書店
(二)代數	續初等代數教科書	藤澤博士	七五〇	大日本圖書株式會社
	方程	式林博士	二、五〇〇	大倉書店

參 考 書

方程式應用問題	同	長澤龜之助	一、〇〇〇	成	美堂
代數學精義	同	長澤龜之助	三、〇〇〇	成	美堂
(三)幾何	菊地博士	菊地博士	一、四七〇	同	大日本圖書株式會
初等幾何教科書平面	同	同	七〇〇	同	同
立體(省略せるもの)	同	同	一、八〇〇	同	同
近世平面幾何學	同	同	一、〇〇〇	同	同
數學叢書	同	同	一、〇〇〇	同	同
作圖不能問題	林博士	林博士	一、八〇〇	同	大倉書店
軌跡小問題	同	同	一、〇〇〇	同	同
極大極小問題	同	同	一、〇〇〇	同	同
(四)三角法	同	同	二、五〇〇	成	美堂
三角法精義	長澤龜之助	長澤龜之助	二、五〇〇	成	美堂

博 物 科

○卒業後一般的

植物學講義	齋田功太郎外一氏	二、五〇〇	寶文館
大日本普通植物誌	同	一、七〇〇	大日本圖書株式會
外實用植物圖說	同	一、五〇〇	同

○卒業實特殊的

植物學圖鑑	東京博物館	三、〇〇〇	北隆館
(參考)動物學講義	山吉五郎	一、八〇〇	寶文館
(新撰)生理衛生	松下禎二	三、七〇〇	大日本圖書株式會
地學叢書	石川成章	一、三〇〇	大日本圖書株式會
普通地質學講義	横山又次郎	二、二〇〇	富山房
鑛物實驗手引	和田八重藏	五、〇〇〇	大日本圖書株式會
實驗動物學講義	稻葉彦六郎	四、四〇〇	開文社
生物學講話	丘淺次郎	四、五〇〇	開文社
ストラスブルグ	三宅驥一外一氏	一、七〇〇	隆文館
植物學形態學	同	一、八〇〇	同
細胞生理遺傳學	山内繁雄	二、〇〇〇	大日本圖書株式會
顯花植物分類學	神谷辰三郎	五、〇〇〇	成美堂
植物系統學	池野成一郎	一、〇〇〇	成美堂
(最新)植物學講義	三好一學	一、〇〇〇	富山房
普通動物學講義	秋山好蓮	一、〇〇〇	興風社
日本產鳥類圖說	内田清之助	一、〇〇〇	警興社

參 考 書

日本水産動物學 藤田 經年 五、五〇
 (增訂)日本昆虫學 松村 松年 一、二〇
 新理科教授法 棚橋 源太 各、五〇
 大鑛物學上中卷 佐藤 次藏 三、五〇
 (增訂)進化論講話 北 川 三郎 二、〇〇
 通俗傳染病叢書 井上 豊太郎 三、〇〇
 通俗トヲホーム豫防法 平瀬 與一 七、〇〇
 貝類手引 草 野 三郎 五、〇〇
 博物實驗室案内 棚橋 源太 一、〇〇
 日本鑛物學各論 比 企 忠 四、〇〇
 海産植物學 遠藤 吉三 三、〇〇
 家庭醫學 糸 左 三郎 一、五〇
 鑛物學精義 大 森 千藏 二、八〇
 動物學講義上卷 石 川 千代 六、五〇
 衛生學講義 三 秀 六、五〇

物理學

○卒業後一般的

(參考)實驗物理學法 志田 順外 一、六〇
 友田 順 二、〇〇
 荳 島 鎮三 一、五〇
 寶成文館

○卒業後特殊的

理論物理學五册 村岡 範爲 七、七〇
 及實驗物理學 袴田 集 一、六〇
 電氣の講話 服部 春之助 一、八〇
 工業發明界之進步 文 部 省 二、〇〇
 物理學初步實驗集 文 部 省 二、〇〇
 積善館
 東亞館
 光風館
 國定教科書共同販賣所

化學科

○卒業後一般的

最近化學精解 近藤 清一 一、三〇
 化學實驗法 小川 耕正 一、五〇
 日用化學講義 藤 耕造 一、八〇
 高岡書店
 成風館

參考書

國民理化精義

水淺嘉之一郎

一、五〇文

永館

○卒業後特殊的

近世化學講義

長俊一

外一氏

四、五〇〇

寶

文成館

近世無機化學

池田

菊苗

四、五〇〇

開

岡成館

最近有機化學

川口

德三

二、〇〇〇

高

岡成書

應用化學

峰屋

貞興

二、〇〇〇

博

岡成書

館

圖畫科

○卒業後一般的

新式日本圖案の應用

安田

銀造

二、五〇〇

同

善文館

一般圖案法

小室

濱信

二、〇〇〇

丸

日本圖書株式會社

圖畫教授の理論及實際

白濱

徵藏

二、〇〇〇

社

日本圖書株式會社

○卒業後特殊的

中等圖學教科書

寺野精一

外一氏

一、八〇〇

共

益商社

スケッチの實際

板倉

贊治

一、五〇〇

目

黑書店

人體畫法
ペインティング
ウォーターカラー
美術新報

川崎安
英人マック
月刊雜誌

九五
二、五〇〇
二、〇〇〇
一、八〇〇
一、五〇〇

丸善取次
三十日
七十日

英語科

○在學中

科 日 著者又は發行所

書 模 範 辭 典

辭 書 三省堂

井上英和大辭典

神田乃武

和英辭典

山田慶

English Grammar No. 2

文 法

英文法講義

發 音 學

發 音 學

片山寛太郎

發 音 學

參 考 書

Smiles
 Aesop's Tables
 Selfhelp; Character ナドノ 授粹
 National, Union Reader 等ノ 第四五卷

Marden
 Pushing to the Front.
 Sketch Book,

Iamb
 Tales from Shakespear.
 上記ノ類ノ多ク世人ニ讀マレタルモノヨリ始メテ少シク、組織的ニ進セントセバ

Swinpton
 English Literature
 ノ如キモノニ依リ順序ヲ倒シテニシテ現代ヨリ代表的作家ニツキ一〇二篇ツヅ、讀ミ漸々古代ニ遡ルヲ可トス

Pancoast
 Introduction to English Literature,
 English Literature

Stopford Brook,
 The Concise Oxford Dictionary
 Concise Etymological Dictionary of English Language.

○卒業後

辭書

文法

發音學

Skeat	Synonyms, Antonyms and Prepositions
Ternald	A Dictionary of English Phrases,
神田。南日	Idiom Grammar and Synthesis,
Nesfield	Practical English Grammar.
Henry Sweet	Advanced English Lessons,
Sweet	New English Grammar.
Kippman	A Primer of Phonetics
岡倉氏	Elements of Spoken English
同	外國語最新教授法
Bruel	英語教育
Gouin	How to learn a Foreign Language.
	The Art of Teaching and Studying Languages.

農業科

○卒業後一般的

作物汎論教科書	佐々木祐太郎	一、七五〇	成	美	堂
作物各論教科書	同	一、二〇〇	成		
果樹教科書	同	一、七〇〇	成		
土壤教科書	同	一、六〇〇	成		
肥料教科書	同	一、六〇〇	成		
養蠶教科書	同	一、九〇〇	成		
畜産學教科書	同	一、七〇〇	成		
學園內容書	八、七、九、六、七、六、五、四、三、二、一				
農業教育農學教授法	佐々木忠治郎	一、七〇〇	成		
一坪農業	八、七、九、六、七、六、五、四、三、二、一				
山口縣農事試驗場要覽	青木信一	一、二〇〇	成		
○同特殊的	澤村清藏	二、〇〇〇	成	美道	館
蔬菜栽培全書	喜田茂一	一、五〇〇	成	美山	堂
(實驗)果樹園藝新書	柘植六郎	一、八〇〇	成	美山	堂

(實用)肥料學	佐々木源十	一、六〇〇	成	美	社
農藝化學實驗法	伊藤清藏	二、〇〇〇	成	美山	舍
農業經營學	櫻田清雄	二、五〇〇	成	美道	館
農村問題之青年學	吉村清尙	一、五〇〇	成		
(最新)肥料學	農商務省農務局	一、四〇〇	成	日本	會
主要農作物耕種要綱	同	一、〇〇〇	成		
普通通作物	同	一、〇〇〇	成		
持用通作物	同	一、〇〇〇	成		
(八、九)養鶏學	八、九、儀三郎	一、八〇〇	成	美山	堂
(最新)農産製造學	中尾節藏	二、五〇〇	成	美山	舍
新學校製造學	松田良藏	一、三〇〇	成	美山	堂
産業組合の經營學	佐藤山本	二、九〇〇	成		
實用昆蟲學	小貫信太郎	一、六〇〇	成		

大正五年十一月三日印刷
大正五年十一月五日發行

不許
複製

編輯者

山口縣積室師範學校

代表者 大岩 榮 吾

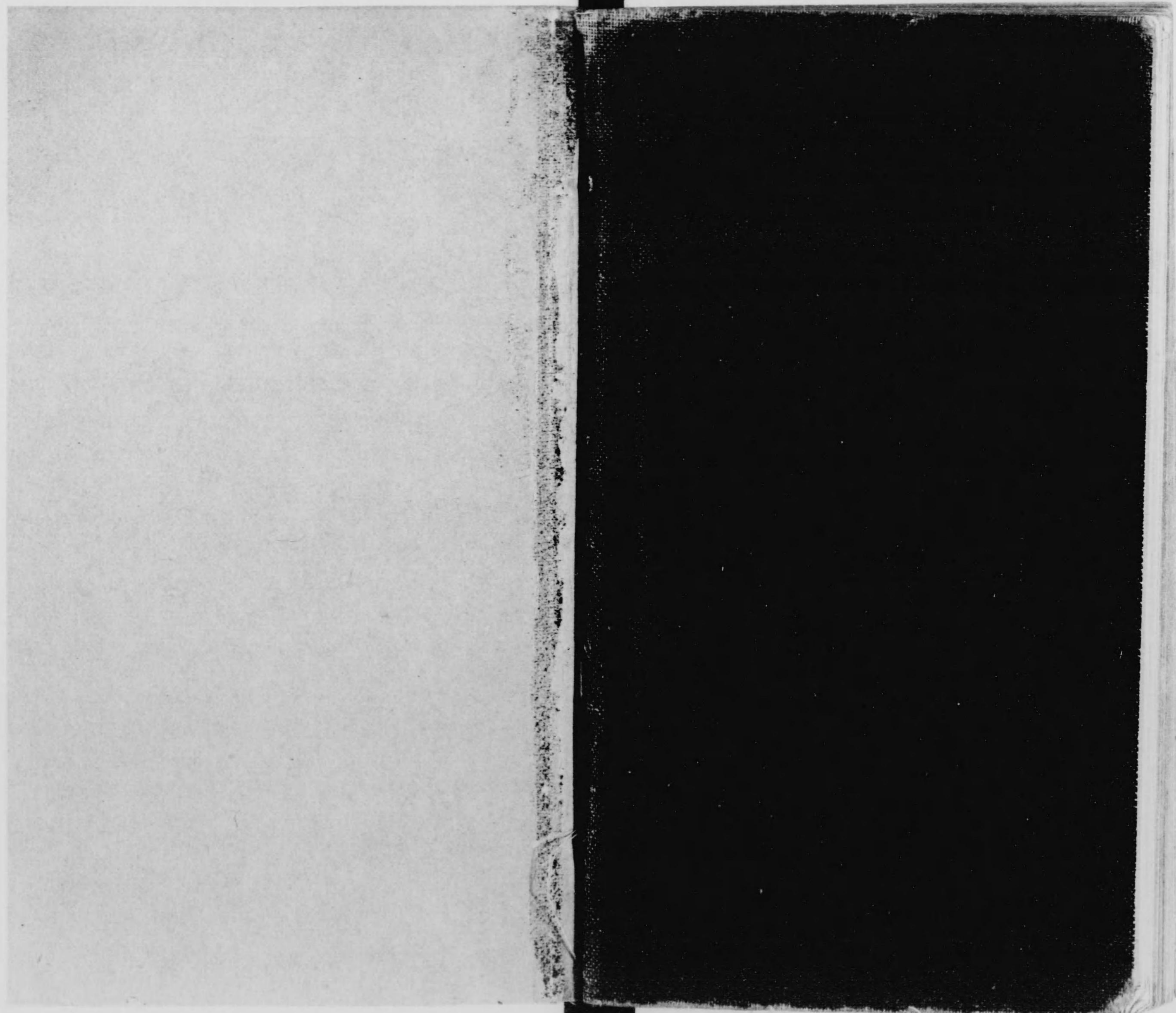
印刷人

京都市北小路通新町西入
須 磨 勘 兵 衛

印刷所

京都市北小路通新町西入
弘 文 社

364
29



364
29

終